

神奈川県宮ヶ瀬湖とその周辺をフィールドに、カヌー等のアウトドアスポーツを展開しています。

特定非営利活動法人
きよかわアウトドアスポーツクラブ
Kiyokawa Outdoor Sports Club

山々の緑と湖の青さが眩しい宮ヶ瀬、自然の息吹を感じ

KOSC

レスキュー講習会



2013年7月7日
KOSC安全管理委員会
カヌー一部作成

- (1) 自然を味わい癒される
- (2) レジャー・仲間との語らい
- (3) 健康・体力の向上
- (4) カヌー・カヤックの技術力の向上
- (5) 冒険心を満足させる



By: 清水孝治さん
岸一博さん

(1) 宮ヶ瀬湖とその他の湖：新倉

(2) 親水池（指導）：池邊

(3) 川下り：藤代



<リバーチャレンジ気田川>

前提：安全は指導されるのではなく、参加者全員が意識し、話し合い、危険を事前に知るためにスカウティング（下見）をし、危険な人工物などを回避（ポーテージ）し、全員が協力し、相互に助け合うレスキュー体制を確立したい。

目的：KOSCの活動の内、カヌー一部の活動が

- ①安全を第一に実施できること
- ②会員が安心して、楽しくカヌーイベントに参加できること

ゴール：2013年度のカヌーイベントに会員が安心して
参加できたと思っただけのこと

アウトプット：

- ①レスキュー講習会に参加して良かった、安全とカヌーを行う
意義について、深く理解し、考える事ができた・・・
と参加者に感じていただけたこと
- ②2013年度のカヌーイベントが無事終了していること
- ③2014年度のカヌーイベントの常連者が増加していること
(指標は後日検討)

① イベントの中止条件

カミナリ、風の影響などの天候を考慮して、安全を最優先にイベントの中止を検討する

② 湖でのレスキュー体制の原則

参加メンバーの力量を考慮した、レスキュー体制について
低体温症への対応

③ その他



① イベントの中止条件

カミナリ、風の影響などの天候を考慮して、安全を最優先にイベントの中止を検討する

② 親水池でのレスキュー体制の原則

受講者のレスキュー体制について

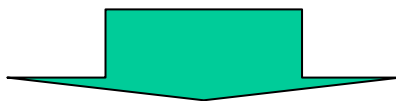
③ その他



初めに

(指導者の気持ち)

親水池での受講者は、カヌーは始めての人
カヌー・カヤックを、安全に楽しんで
カヌーのファンになってもらおう！



親水池指導での危険

- ・強風、雷、雨による危険
- ・艇が沈して、受講者が溺れる
- ・熱中症、熱射病
- ・怪我、有害生物からの危害

親水池での危険発生の要因

- ・天候 : 強風、雷、雨、日差し、気温、湿度
- ・水辺特有 : 水深、水温、親水池の危険箇所、蜂・ヘビ・ヒル等の生物
- ・受講者 : 年齢、体力、体調、人数、性格(素直さ)、経験、障害
- ・指導対象 : 財団スクール(Free参加、家族友人)、学校等団体指導
- ・指導者 : 技量、体調、チームワーク

危険発生の要因の排除(対策)

- ・天候・水辺 : 開催の中止・中断の判断、水分補給・危険箇所と回避策の説明
- ・受講者 : 参加の拒否・制限、対象者の見極めと重点フォロー
- ・指導対象 : 財団職員、団体引率者の協力要請
- ・指導者 : 日頃の訓練(指導者講習会、レスキュー講習会)、適切な役割分担

親水池でのレスキュー体制

- ・受講者には、沈をさせない指導の徹底。
- ・沈した時は、溺れさせない、池の水を飲ませない。

受講者が沈するのは、

- * 乗船・下船時の乗り降り(体の移動で不安定)
- * スタート直後の棧橋近く(船に不慣れ)
- * 片側に片寄る、立ち上がる、艇を故意に揺らす(重心移動)
- * まれに、突風に吹かれて沈

親水池でのレスキュー体制

- ・受講者には、沈をさせない指導の徹底。
- ・沈した時は、溺れさせない、池の水を飲ませない。

対応策 * (基本)ライフジャケットの正しい装着指導と確認

- * 乗船・下船時の乗り降り(体の移動で不安定)
 - ・乗り降りの注意事項説明
 - ・付き添って乗り降りを補助
- * スタート直後の棧橋近く(船に不慣れ)
 - ・指導者1名以上が水上で待機し、レスキュー
- * 片側に片寄る、立ち上がる、艇を故意に揺らす(重心移動)
 - ・注意事項説明
 - ・水上で監視、行為の静止指導
- * まれに、突風に吹かれて沈など
 - ・迅速なレスキューと、多発防止の注意喚起

① イベントの中止条件

天候を考慮して、水量、水の色を参考に安全を最優先に
イベントの中止を検討する(台風・増水の後には川に近づかない)

② 川でのレスキュー体制の原則

参加メンバーの力量を考慮した、レスキュー体制の原則について

③ 川下りポリシー

例の事故の「川下り」ポリシーの徹底について



(3)-①イベントの中止条件

P.10

* 天候を考慮して、水量、水の色を参考に
安全を最優先にイベントの中止を検討する

* 討議検討:

* 結論: ★台風など雨の降っている時、その翌日以降は川に入らない(水量に注意)

★水の色、茶色は中止、グレイは要検討

(3)-②川でのレスキュー体制の原則

P.11

-
- * 参加メンバーの力量を考慮した、レスキュー体制の原則について
 - * 川でのレスキューの実際： 本人・艇・パドル
 - * 下る川の等級(クラス)： 1～6級 日本では5級まで
 - * 川下り参加者の力量：
 - ①レスキューできる人(川ではパドル、艇を回収する)
→沈しない、沈してもロールで必ず上がれる
 - ②たまに沈しても、自分とパドルは確保可能な人
 - ③レスキューされることが多い人、パドルも離す
 - * フォーメーション：
 - ①団子状態で瀬に入らない
 - ②瀬に入る「順番」を守る

(3)-②川でのレスキュー体制の原則



(3)-③ -1 川下りポリシー

P.13

* 例の事故の「川下り」ポリシーの徹底について

【スローガン】

「仲間と長くカヌーライフを楽しむために」ポリシーを作り、
常に見直し、守ります

【目的】

☆我々の川下りは、冒険が目的ではなく、仲間と語り、
自然に親しむことを目的とします。

☆家族からの理解を得られるような活動を心がけ、
コミュニケーションを図ります。

(家族からの趣味としてのカヌー活動を理解してもらえるために)

☆2007年9月8日の緒方さん、時松さんの事故を忘れない！

【基本姿勢】

- ☆スケジュールを優先させるのではなく、安全を優先します
 - ☆体調の管理をし、不調の場合は勇気をもって川下りを中止します
 - ☆誰か一人でも、反対すれば、その意見をよく聞き、話し合います
 - ☆天候に留意し、台風の後や、増水した川は絶対に下りません
 - ☆堰など、人工物には近づきません、必ずポーテージします
 - ☆警告板や注意勧告は尊重し、川下りを控えます
 - ☆初心者に対しては、川・水の恐さと人工物の危険性を確実に伝えます
- ☆2007年9月8日の緒方さん、時松さんの事故を忘れない！

【細則】

☆個人の技術のスキルアップと体力の向上を目指します。

☆指導者を招き、技術の向上に努力します。各人技術向上のテーマをもって参加します。

☆その上で、セルフ・グループレスキューの技術を上達させます。

☆装備、ギアを点検しあい、不具合があれば友情から注意します。
(特にライフジャケット)

☆準備運動を確実に行き、ケガをしないように心がけます。

☆川下りをする場合は三人以上で行い、初心者がいる場合は二人がサポートできるようにします。

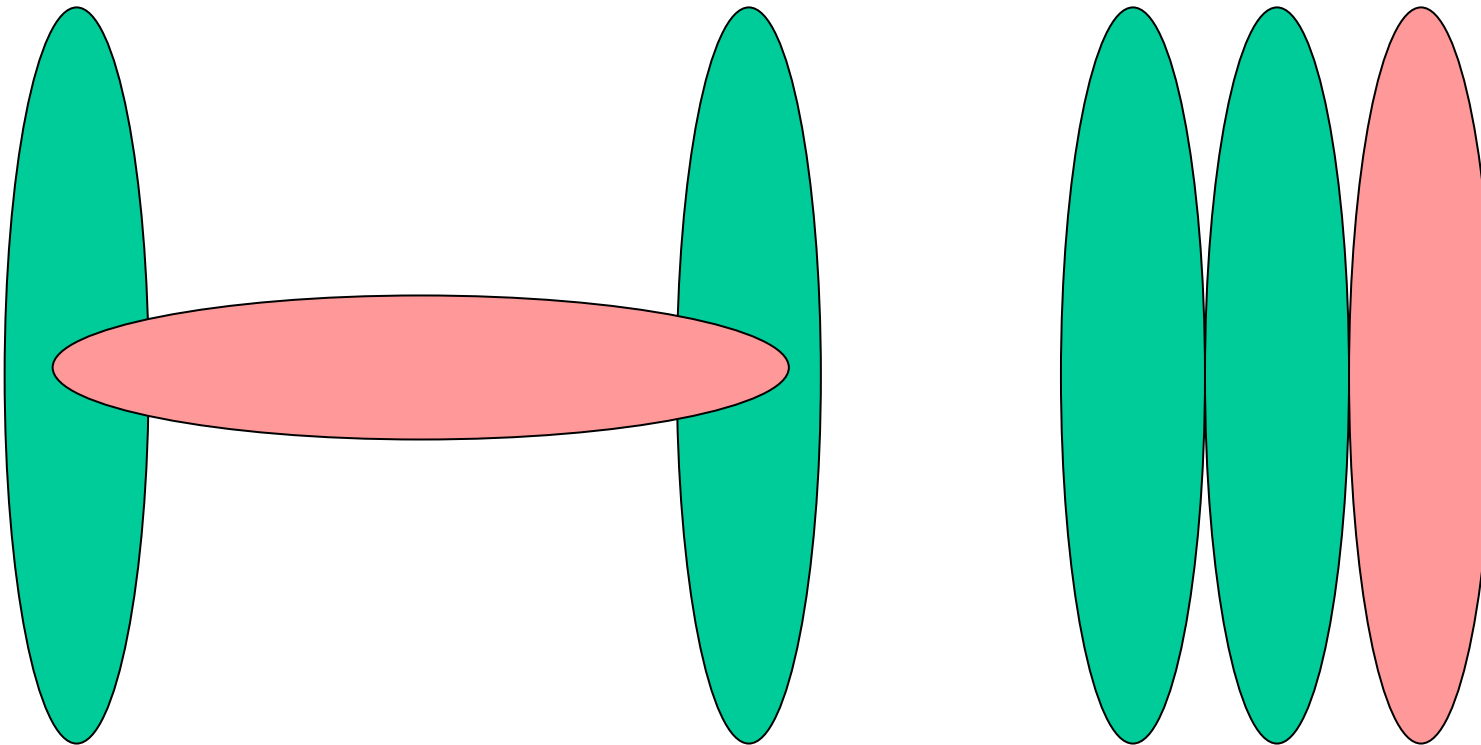
☆2007年9月8日の緒方さん、時松さんの事故を忘れない！

☆午前中の実施予定

- ①カヌーでカヌーをレスキューする場合
- ②カヌーでカヤックをレスキューする場合
- ③カヤックでカヌーをレスキューする場合
- ④カヤックでカヤックをレスキューする場合
- ⑤インフレーターブルをレスキューする場合

* 昨年までのレスキュー講習会のテクニックを元に、
参加者全員でより良いレスキュー方法を考える

①カヌーでカヌーをレスキューする場合



☆午前中の実施予定

実際に湖で実践練習 ♪

ご協力ありがとうございました♪

P.16

